

平成28年度行政事業レビューシート (公正取引委員会)

事業名	競争政策研究センター			担当部局	経済取引局			作成責任者		
事業開始年度	平成15年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	総務課経済調査室			木尾 修文		
会計区分	一般会計									
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	-					
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	競争政策研究センター(CPRC)は、足元の施策実施に役立てるという観点のもとより、中長期的観点から独占禁止法の運用や競争政策の企画・立案・評価を行う上での理論的・実証的な基礎を強化するため、外部の研究者や実務家の知的資源と公正取引委員会職員との機能的・持続的な協働のプラットフォームの整備を図ることを目的としている。									
事業概要 (5行程度以内。別添可)	競争政策研究センターは、外部の研究者や実務家と公取委職員との協働のプラットフォームの整備を図ることを目的としたバーチャルな組織であって、プロジェクトごとに経済学者、法学者に公正取引委員会職員が加わって共同研究を行うとともに、定期的にワークショップ、公開セミナー、国際シンポジウムを開催している。									
実施方法	直接実施									
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求			
		補正予算	-	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-	-			
		計	22.4	23.4	22.1	22	21.8			
	執行額	18.5	19.8	17.5						
	執行率(%)	83%	85%	79%						
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
					成果実績	-	-	-	-	-
					目標値	-	-	-	-	-
					達成度	%	-	-	-	-
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載								<input type="checkbox"/> チェック		

		定量的な目標が設定できない理由			定性的な成果目標と25～27年度の達成状況・実績					
定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	共同研究の実施やイベントの開催が活動の中心であり、政策等への反映状況について定量的な目標を設定することは困難であるため。			<p>定性的な成果目標は、経済学者、法学者及び公取委職員で行う共同研究の実施などの活動を通じ、独占禁止法の運用や競争政策の企画・立案・評価を行う上での理論的・実証的な基礎を強化すること及び公開セミナーの実施等により競争政策の重要性や競争政策に係る最近の主要な論点等に関する情報発信を行うことで、事業者、法曹等の実務家、行政機関の職員等における競争政策に係る理解の増進を図ることである。</p> <p>平成25～27年度においては、12の競争政策に関するテーマについて共同研究を実施し、平成25、26年度に実施したものについては、研究成果として、報告書をホームページで公表した。また、毎年度公開セミナーを3回開催し、平成25、26年度に国際シンポジウムを1回開催したところ（平成27年度においては国際シンポジウムを平成28年6月に開催することとした。）、参加者の満足度はいずれの回とも高く、参加者にとって参考となるものだったといえる。</p>						
	定量的な成果目標の設定が困難な場合 事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標最終年度
競争政策の重要性や競争政策に係る最近の主要な論点等に関する情報発信のため、公開セミナーを過去5年間の平均と同等又はそれを上回る程度で実施		公開セミナーの開催回数	実績	回	3	3	3	-	-	
			目標値	回	3	3	3	-	-	
			達成度	%	100	100	100	-	-	
代替目標	代替指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標最終年度		
事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	事業者、法曹等の実務家、行政機関の職員等における競争政策に係る理解の増進により事業者等に対する競争政策の定着を図る	公開セミナーにおける参加者の満足度（※アンケートにおいて公開セミナーの内容について、「大変参考になった」を5、「参考になった」を4、「全く参考にならなかった」を1とした5段階評価の結果、「5」又は「4」と回答した参加者の割合）	実績	%	83.2	92.6	97.5	-	-	
			目標値	%	-	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	-	
代替目標	代替指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標最終年度		
事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	同上	国際シンポジウムにおける参加者の満足度（※アンケートにおいて国際シンポジウムの内容について、「大変参考になった」を5、「参考になった」を4、「全く参考にならなかった」を1とした5段階評価の結果、「5」又は「4」と回答した参加者の割合）	実績	%	98.5	96.8	-	-	-	
			目標値	%	-	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	-	

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	公開セミナーの開催回数	活動実績		回	3	3	3
当初見込み			回	3	3	3	3
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	国際シンポジウムの開催回数	活動実績		回	1	1	0
当初見込み			回	1	1	1	1
単位当たりコスト	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	公開セミナーの開催に係る経費/開催回数	単位当たりコスト	円	194,695	347,136	307,851	244,667
計算式		円/回		584,086/3	1,041,408/3	923,553/3	734,000/3
単位当たりコスト	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	国際シンポジウム開催に係る経費/開催回数	単位当たりコスト	円	3,422,923	4,429,339	0	4,825,000
計算式		円/回		3,422,923/1	4,429,339/1	4,830,000/0	4,825,000/1

平成28・29年度予算内訳 (単位：百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由			
	諸謝金	8.5	8.3	・諸謝金は、執行実績を踏まえた見直しにより0.2百万円減。 ・職員旅費は、研究活動に伴う調査活動に必要な旅費0.4百万円増。 ・委員等旅費は、執行実績を踏まえた見直しにより0.4百万円減。			
	職員旅費	0.1	0.5				
	委員等旅費	7.8	7.4				
	経済実態等調査費	5.7	5.7				
	計	22	21.8				

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	競争政策の普及啓発等 3								
		施策	競争的な市場環境の創出のための提言等 3-3							
	政策評価		定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標年度
		測定指標	公開セミナーの開催回数	実績値	回	3	3	3		
				目標値	回	3	3	3		
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	競争政策研究センターにおいて公開セミナーを継続的に年3回程度実施することにより、競争政策の重要性や競争政策に係る最近の主要な論点等に関する情報を発信し、事業者、法曹等の実務家、行政機関の職員等における競争政策に係る理解を増進し、もって競争的な市場環境を創出する。									
	改革項目	分野:	-							
		(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標最終年度
	成果実績									
目標値										
達成度	%									
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標最終年度		
	成果実績									
	目標値									
	達成度	%								
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係										

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	昨今競争政策の重要性が高まる中、独占禁止法の運用や競争政策の企画・立案・評価を行う上での理論的・実証的な基礎を強化をすることは、国民や社会のニーズを的確に反映しているといえる。また、共同研究に関連したテーマで開催している国際シンポジウムや公開セミナーには、競争政策に関係する企業関係者や法曹等が多数参加していることから、国民のニーズがあり、優先度が高い事業といえる。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	独占禁止法の運用や競争政策の企画・立案・評価に資する研究を行って、研究成果を実務に反映させていくためには、公正取引委員会職員(国)が研究に参加するなどして、主体的に研究活動を行っていく必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	競争政策の企画・立案、独占禁止法の運用は、経済学に理論的基礎を置いており、政策に適切に応用していく上では、外部の研究者や実務家といった知的資源と公正取引委員会職員との間で、競争政策に関する情報を共有し、密接に意見交換を行う機能的・持続的な協働のプラットフォームを整備することは、必要かつ適切であり、優先度が高い。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	支出先の選定に当たっては、過去に品質が良く価格も安かった事業者を含め、2者又は3者からの見積り合わせを実施して競争性の確保・コストの削減に努めている。
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	公開セミナー、国際シンポジウム等の講演者に対し、旅費及び謝金を支払っているところ、その金額は、規則・統一単価に基づいたものとなっている。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	共同研究の実施や研究成果の普及等の事業目的の実現に必要な不可欠かどうかを慎重に吟味した上で印刷、翻訳等の経費の支出の可否を判断している。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	電話会議の活用により、委員等旅費等の削減に努めている。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	複数の競争政策に関するテーマについて、公正取引委員会職員、経済学者及び法学者による共同研究を実施し、研究成果を公表している。また、競争政策の重要性や競争政策に係る最近の主要な論点等に関する情報発信のため、公開セミナー及び国際シンポジウムを開催しており、参加者の満足度も高い。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	平成27年度に国際シンポジウムを講演者の都合により平成28年度に開催することとなったことを除き、公開セミナー及び国際シンポジウムの開催実績は当初の見込みと同等となっている。また、公正取引委員会職員、経済学者及び法学者による共同研究を数本実施し、研究成果を公表している。
整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	共同研究報告書はホームページでの公表や大学・研究機関等へ配布しているほか、競争政策に関する検討の場においても参考にされるなど積極的に活用している。	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	所管府省・部局名	事業番号	事業名
点検・改善結果	点検結果	競争政策研究センターにおいて、当初目標とした回数の公開セミナー及び国際シンポジウムを継続的に実施することにより、競争政策の重要性や競争政策に係る最近の主要な論点等に関する情報を発信し、事業者、法曹等の実務家、行政機関の職員等における競争政策に係る理解を増進してきている。	
	改善の方向性	公開セミナー及び国際シンポジウム等の開催に当たり、セミナー等に対する参加者の要望等を収集すること等を通じ、参加者の満足度や競争政策に係る理解をより増進する方法を検討する。また、より実務に即したテーマを取り扱うとともに、共同研究報告書等の成果物が、実際にどのような場面でどのような方法で活用されているのかを把握することを通じて、成果物がより積極的に活用される方法を検討する。	

外部有識者の所見

研究テーマの設定や研究成果の公正取引委員会の活動へのフィードバックなどを適切に進めるとともに、研究成果が公正取引委員会の施策にどのように活かされたか、公開セミナー等の参加者や研究成果の利用者がそれを何に活用できたかという観点から、競争政策研究センターの活動とその成果を評価することが必要である。
また、広報活動を工夫して、競争政策研究センターを世間に認知させる必要がある。

行政事業レビュー推進チームの所見

現
状
通
り

公開セミナーやシンポジウムの参加者の満足度が高く、積極的な取組が行われている点は評価できるが、競争政策研究センターの知名度を向上させる工夫、質の高い知的貢献を得られるような工夫、また、競争政策研究センターの研究成果がより一層公正取引委員会の実務に活用されるようになる工夫に努めること。
執行に当たっては更なる経費の効率化に努めること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

縮
減

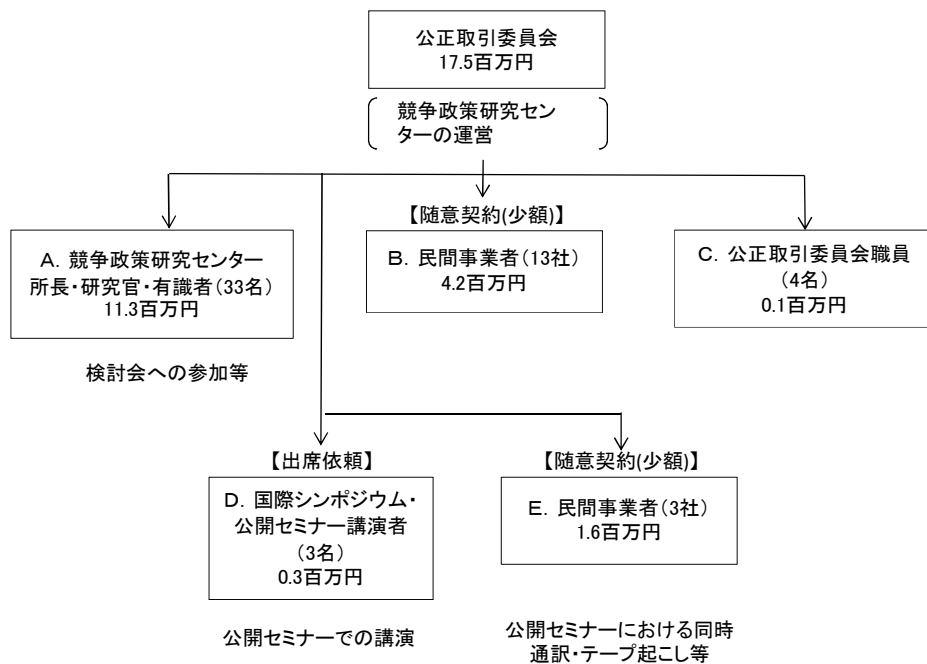
行政事業レビュー推進チームの所見どおり、事業内容を維持する。要求額については、研究活動に伴う調査活動に必要な職員旅費を増額させているが(0.4百万円)、執行実績を踏まえた見直しを行うことにより更なる経費の効率化に努めた(反映額:諸謝金▲0.2百万円、委員等旅費▲0.4百万円)。引き続き、事業の効率的な予算執行に努めるとともに、競争政策研究センターの知名度を向上させるための工夫、研究成果がより積極的に活用される方法について検討する。

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	③(6)	平成23年度	⑩	平成24年度	⑤		
平成25年度	④	平成26年度	④	平成27年度			

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているかについて補
足する)
(単位:百万円)

費目・使途 （「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載）	A.競争政策研究センター所長・研究官・有識者			B.民間事業者		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	謝金	謝金	2.2			
	旅費	交通費等	0			
	計		2.2	計		0

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載 チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	個人A		競争政策研究センターでの会議等への出席	2.3	-			
2	個人B		競争政策研究センターでの会議等への出席	2.1	-			
3	個人C		競争政策研究センターでの会議等への出席	1.3	-			
4	個人D		競争政策研究センターでの会議等への出席	1	-			
5	個人E		競争政策研究センターでの会議等への出席	0.6	-			
6	個人F		競争政策研究センターでの会議等への出席	0.5	-			
7	個人G		競争政策研究センターでの会議等への出席	0.5	-			
8	個人H		競争政策研究センターでの会議等への出席	0.4	-			
9	個人I		競争政策研究センターでの会議等への出席	0.3	-			
10	個人J		競争政策研究センターでの会議等への出席	0.2	-			

B

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	公益財団法人流通経済研究所	2010005019116	共同研究に係るデータの購入	1	随意契約 (少額)			
2	株式会社ライトストーン	5010601032155	統計解析ソフトのアップデート	0.8	随意契約 (少額)			
3	株式会社エイチ・アイ・エス	6011101002696	海外出張に係る航空券の購入	0.6	随意契約 (少額)			
4	日本電子計算株式会社	2010601038584	統計解析ソフトの購入	0.6	随意契約 (少額)			
5	ユサコ株式会社	2010401030329	論文データベースの利用料	0.4	随意契約 (少額)			
6	株式会社トランス・アジア	1011001016074	共同研究等に係る翻訳業務	0.2	随意契約 (少額)			
7	株式会社和幸印刷	8011101022206	共同研究報告書の印刷	0.2	随意契約 (少額)			
8	株式会社インターグループ	8120001060882	共同研究に係る翻訳業務	0.2	随意契約 (少額)			
9	マスワークス合同会社	3010403007563	ソフトウェアの保守サービス	0.1	随意契約 (少額)			
10	株式会社三省堂書店	7010001016830	共同研究に係る書籍の購入	0.1	随意契約 (少額)			

平成28年度行政事業レビューシート (公正取引委員会)

事業名	政府規制・公的制度等に関する検討会議			担当部局庁	経済取引局			作成責任者		
事業開始年度	昭和55年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	経済取引局調整課			藤井 宣明		
会計区分	一般会計									
根拠法令(具体的な条項も記載)				関係する計画、通知等						
主要政策・施策				主要経費	その他の事項経費					
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	我が国における社会・経済情勢の変化を踏まえ、政府規制・公的制度について、競争政策の観点から検討し、必要に応じて提言等を行い、また、各府省における規制の事前評価に当たっての競争評価の内容の向上を図ることで、競争的な市場環境を創出する。									
事業概要(5行程度以内。別添可)	政府規制・公的制度の競争政策の観点からの提言等については、経済法や各分野で知見を有する有識者から意見を聴取するなどして、検討を行っている。また、競争評価の在り方については、経済学や規制の事前評価の知見を有する有識者を招いて検討を行っている。									
実施方法	直接実施									
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求			
		補正予算	-	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-	-			
		計	1.3	1.4	1.3	1.3	1			
	執行額	0.6	1.3	0						
	執行率(%)	46%	90%	0%						
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標最終年度	
			成果実績	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	-	
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載							<input type="checkbox"/> チェック			
定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由			定量的な成果目標と25~27年度の達成状況・実績						
	政府規制・公的制度等に関する有識者からの意見聴取・検討が中心であり、政策への反映状況について定量的な目標を設定することは困難。			検討会議の開催を通じて、競争政策の観点から有効かつ適切な提言を得るとともに、競争評価の内容のより一層の向上により、競争的な市場環境を創出することを目標としている。25~27年度において、保育や公的再生支援について競争政策の観点から有効かつ適切な提言が得られ、また、競争評価の手法等の検討を通じて競争評価の内容のより一層の向上に寄与したため、競争的な市場環境の創出に一定程度貢献できたと考えられる。						
事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標最終年度	
	検討会議により得られた提言を、規制・制度を所管する行政機関のみならずより広く周知し、競争政策の観点から規制・制度の当否、見直し等に関する議論を喚起することによって競争的な市場環境を創出する。	ホームページ(検討会議の成果物である報告書等)のアクセス件数	実績	回	-	8,004	3,929	-	-	
			目標値	回	-	3,000	3,000	-	-	
			達成度	%	-	266.8	130.9	-	-	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	検討会議の開催回数			活動実績	回	5	8	0		
				当初見込み	回	7	7	7	7	

単位当たりコスト	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	検討会議開催に係る費用／開催回数 なお、競争評価の実施状況の検証については、コストは発生しない。			円	119,118	156,952	0
			計算式	円/回	595,590/5	1,255,612/8	-

平成28・29年度予算内訳 (単位：百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由			
	諸謝金	0.4	0.3	・諸謝金は、執行実績を踏まえた見直しにより0.1百万円減。 ・委員等旅費は、執行実績を踏まえた見直しにより0.1百万円減。 ・経済実態等調査費は、執行実績を踏まえた見直しにより0.05百万円減。			
	委員等旅費	0.6	0.5				
	経済実態等調査費	0.2	0.2				
計	1.3	1					

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	競争政策の普及啓発等 3							
	施策	競争的な市場環境の創出のための提言等 3-3							
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標年度
			実績値	-	-	-	-		
			目標値	-	-	-	-		
		定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)				
		各府省における規制の事前評価に当たっての競争評価の定着及びその内容の向上を図ることによって、各府省に対して競争政策の定着を図る。	28年度	以下をはじめ、各府省における規制の事前評価に当たっての競争評価の定着及びその内容の向上に努めた。 ①平成27年度に各府省において実施された規制の事前評価の件数に対して競争チェックリストを用いた競争評価が実施された件数の割合100% ②平成27年度に開催した競争評価に関する検討会議の開催回数0回					
		各府省における規制の事前評価に当たっての競争評価の定着及びその内容の向上による各府省に対する競争政策の定着状況		施策の進捗状況(実績)					
		本事業の成果と上位施策・測定指標との関係							
		検討会議を開催し、検討会議により得られた提言を、規制・制度を所管する行政機関のみならず広く周知することは、上位施策の目標を達成するのに資する。							

経済・財政再生アクション・プログラム	改革項目	分野:	-					
	KPI (第一階層)		単位	計画開始時年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標最終年度
		成果実績						
		目標値						
		達成度	%					
	KPI (第二階層)		単位	計画開始時年度	27年度	28年度	中間目標年度	目標最終年度
		成果実績						
		目標値						
		達成度	%					
	本事業の成果と改革項目・KPIとの関係							

事業所管部局による点検・改善			
	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	政府規制・公的制度は、その内容によっては、公正かつ自由な競争を妨げ、市場メカニズムを通じた経済の発展を阻害する場合もある。したがって、既に存在する政府規制・公的制度について競争政策の観点から検討し、必要に応じて提言等を行うこと、また、競争評価の改善を通じ、各府省において規制がもたらす競争への影響を適切に考慮した上で規制が策定されるようにすることは、競争・市場メカニズムを通じた経済の発展に貢献するものであり、国民や社会のニーズに合致している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	公正取引委員会は独立行政委員会であり専門性を有するところ、競争政策の観点から、政府規制・公的制度の見直し等についての的確な提言等を行い、その改善等を実現するためには、地方自治体や民間等に委ねることは適当ではない。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	政府規制・公的制度について競争政策の観点から検討を行うには、各分野で知見を有する有識者からの意見聴取及び一堂に会した場での議論が不可欠であり、そのための達成手段として検討会議の開催は必要かつ適切である。また、多岐にわたる規制が日々刻々と変化の中で、競争政策の観点から適宜適切に規制の検討を行うことは、競争政策全体の中で優先度の高い事業といえる。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	平成27年度の支出はないが、速記録作成については、これまで法務省との共同調達による年間契約を、同時通訳及び会議室の提供については複数者による相見積りを原則とすることにより、競争性の確保を図ってきているところ。
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		
	競争性のない随意契約となったものはないか。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	本事業については、国民全体が受益者であるため、負担関係は存在しない。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	平成27年度の支出はないが、これまで、旅費及び謝金については、規則・統一単価に基づいて支出してきている。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	中間段階の支出は存在しない。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	-	平成27年度の支出はないが、これまで、会員への旅費、謝金、速記録作成、同時通訳及び会議室の提供のみについて支出をしてきており、必要最小限に限定している。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	今年度は、検討会議を開催していないため、回答なし。	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-	平成27年度の支出はないが、これまで、経済実態等調査費の支出に当たっては、コスト削減のため法務省との共同調達の手段を用いることにより安価の調達先を確保するよう努めてきている。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-	平成27年度の検討会議については7回の開催を見込んでいたところ、一度も開催できなかったため、成果目標に見合った実績を得られていない。このような状況に至った背景については、次のとおり。 ・平成27年度は、介護分野の実態調査の一環として、平成28年2月～3月にかけて、意見交換会を3回程度開催することを予定していたが、当初出席を予定していた委員が直前になって辞任を申し出たために、再度の委員の選定が必要になるという想定外の事態が発生した上、新委員を含めた日程の調整が難航したため、年度内の開催が困難となった(なお、本意見交換会については、平成28年4月及び5月に開催したところ)。 ・競争評価検討会議については、当初は、競争評価の実施された規制の検討を予定していたが、総務省と調整を続けていた競争評価の本格的実施のタイミングについて目途が立たなかったため、本格的実施後の具体的なスキームの策定に取り組む必要が生じた結果、開催しないこととした。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	従来、有識者が一堂に会した場で議論を行うこと及び有識者間相互で議論を行うことにより、個別の意見聴取等の方法に比べて、効果的に意見聴取ができています。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-	平成27年度の検討会議については7回の開催を見込んでいたところ、実績は見込みに見合ったものではない。その理由については、上述したとおり。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	従来、検討会議の成果物である提言は公表し、関係行政機関のほか広く国民に周知することで競争的な市場環境の創出のために活用している。
点検・改善結果	点検結果	平成27年度は、上述した理由で検討会議を開催していないが、検討会議の開催は、複数の有識者を招いた多様な意見を聴取しながら議論を行うことにより、充実した検討を行うことを可能とするものである。また、検討会議の成果は、従前報告書として公表してきているところ、ウェブサイトへのアクセス件数からも明らかなどあり、これら報告書に対する国民・社会の関心は高く、競争的な市場環境の創出に役立っていると評価できる。 したがって、引き続き、来年度以降も事業を実施する。	
	改善の方向性	引き続き、競争環境を整備するため、今後成長が期待される分野等について、競争政策の観点から調査等を行うよう努める。 また、開催の見込まれる検討会議の準備を行うに当たっては、実態調査の進捗状況も踏まえつつ、可能な限り、早期に準備を行いたい。	

外部有識者の所見

点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

現状通り

政府規制・公的制度についての提言を行うためには、有識者からの意見聴取が必要不可欠であり、現状維持が妥当であるが、予算を有効に活用して成果を最大限に出すよう世の中の動きを先取りしたテーマ設定を行うなどの努力をすること。執行に当たっては更なる経費の効率化に努めること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

縮減

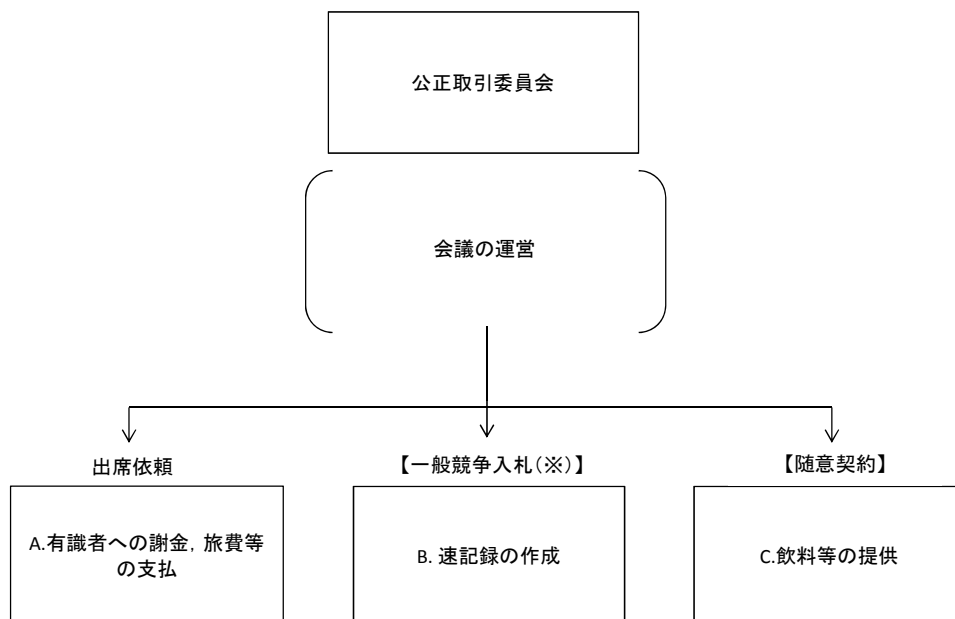
行政事業レビュー推進チームの所見どおり、事業内容を維持するが、執行実績を踏まえた見直しを行うことにより更なる経費の効率化に努めた(反映額: 諸謝金▲0.1百万円, 委員等旅費▲0.1百万円, 経済実態等調査費▲0.05百万円)。引き続き、事業の効率的な予算執行に努めるとともに、今後成長が期待される分野等を見極め、適切なテーマを選定し、調査・検討を行うよう努める。

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	③(7)	平成23年度	⑪	平成24年度	⑥		
平成25年度	⑤	平成26年度	⑤	平成27年度	⑤		

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



(※)法務省との共同調達による年間契約

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

